

「LA を活用した授業」申請書記入例（記述式の部分）

教育開発支援センター

1 （4 名以上の LA を雇用する場合）LA 人数と理由（設問 2）

<記入例>

人数：4 名

理由：全グループ（4 名×6 グループ）への質問対応を確実にし、かつ、進捗が遅いグループへの重点的な対応を行える体制を整えるために、4 名の LA が必要である。

受講生は、グループでテーマの設定から調査に基づく論証、そして最終回の授業における成果発表を行う。教員は全グループをまわり、適切な助言を与えるようにするが、受講生の中心は 1 回生であるため、上記のプロセスを初めて経験する者が多い。そのため、特定のグループ（または受講生）への対応に時間を要する場合も多い。進捗が遅いグループがあると、授業全体への進度に影響を及ぼすことから、LA の活用により、限られた授業時間内で最大限の学習効果を得られるようにすることがねらいである。

2 授業の特色（設問 5）

授業の内容に加え、理念・方法・環境（人数・使用予定機材等）などを中心にご記入ください。LA の必要性にも言及をお願い致します。

<記入例>

申請科目は、〇〇学部 1 年次必修科目であり、××名が受講予定である。△△学の基礎知識や卒論執筆に必要な課題発見能力、発見した課題をチームで解決する能力の修得を目的とする。学生同士の教え合い・学び合いを重視した授業を行うため、毎回グループワークまたはプレゼンテーションを取り入れる予定である。また、授業時間外も関大 LMS の会議室機能を用いて受講生同士の議論を行う。このような学生同士の教え合い・学び合いを活性化させるために、授業時間内外での LA によるファシリテーションが必要となる。

3 LA の活用方法（設問 6）

毎回の授業（授業時間内及び授業時間外）における LA の活用方法を具体的にご記入ください。

<記入例>

授業時間内では、①グループワークのファシリテーション、②受講生の前でモデル・プレゼンテーション、③受講生のプレゼンテーションに対するコメント、以上 3 点を中心に行う。

授業時間外では、①関大 LMS 上での受講生同士の議論に対するコメントのモニタリング、②授業内容の振り返りや打ち合わせ、以上 2 点を中心に行う。

4 期待される効果（設問 7）

設問 6「LA の活用方法」を実践して期待される効果を具体的にご記入ください。

<記入例>

グループワークでは、受講生と年齢の近い LA から示唆を得ることで、受講生の学習内容に対する理解が深まるとともに、学習意欲を喚起することが期待される。また、関大 LMS 上での受講生同士の議論や授業内容について LA の意見を聞くことで、授業内容の改善に資するヒントを得ることができる。

以 上